

記載例(秋耕)

この緑の枠で囲んだ箇所を記載してください

(参考様式第1-5号)生産記録  
(秋耕の取組)

組織名	雲南エコファーム
氏 名	雲南 太郎

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)
キスキ1	10a	つや姫
キスキ2	20a	

- ・配布した実施区画を参考に原則圃場ごとに生産記録をまとめてください
- ・ただし、同じ取組、同じ栽培方式、同じ作物ならば、別々の圃場でも一枚の生産記録にまとめて良いです

1 秋耕

作業名	実施時期	備考
秋耕	令和6年〇月〇日～令和6年〇月〇日	

- ・実際に秋耕を実施した日を記載してください(上旬等の記載ではダメです)
- ・作業を実施した時期に幅がある場合は、「〇月〇日～〇月〇日」と記載してください

2 5割低減の取組  
(1)主な作業

作業名	実施時期	備 考
播 種	令和6年〇月上旬	
定 植	令和6年〇月下旬	
収穫(終了日)	令和6年△月△日	

- ここでは、使用された化学肥料が基準値以下であるか確認します
- ・施用したすべて肥料の正式名称及び窒素成分の割合、使用時期、使用量を記載してください

(2)使用肥料

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)(A)	慣行の5割低減の水準(kgN/10a)(B)	備 考
〇〇有機	10	令和6年9月上旬	20	2.0		
〇〇化成	0.5	令和6年11月上旬	50	0.25		
合 計				2.25	4.0	

窒素成分量の計算の仕方  
窒素成分の割合×使用量  
例)  
20kg/10a×10%=2.0kgN/10a  
50kg/10a×0.5%=0.25kgN/1

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。  
(注2) (A)の合計 ≤ (B)の値 となっているか確認すること。

- ここでは、使用された農薬が基準値以下であるか確認します
- ・施用したすべての農薬の正式名称及び使用時期、成分回数を記載してください

(3)使用農薬

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準(成分回数)(D)	備 考
〇〇殺虫剤	令和6年〇月上旬	2		
〇〇殺菌剤	令和6年〇月上旬	1		
□□殺菌剤	令和6年〇月下旬	2		
△△殺虫剤	令和6年〇月下旬	2		
△△殺虫剤	令和6年〇月下旬	2		
□□(生物農薬)	令和6年〇月上旬	-		
合 計		7	10	

成分回数の計算の仕方  
農薬が含む有効成分の数×散布回数  
例)  
殺虫剤(2成分)×散布1回=2  
殺菌剤(1成分)×散布1回=1  
殺菌剤(2成分)×散布1回=2  
殺虫剤(2成分)×散布1回=2

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。  
(注2) (C)の合計 ≤ (D)の値 となっているか確認すること。

3 保管書類

□主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)  
(注)保管してある書類名の□に、■または✓を入れること。

送付資料の「特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに基づく慣行レベル一覧表」を参考に農薬使用回数、化学農薬窒素成分量を確認し、ご提